

千代田区

千鳥ヶ淵ボート場事務所及び

2009年さくらまつりの電力を太陽光発電で！

千代田区（区長・石川雅己）と千代田区観光協会（会長・高木茂）は、改築される千鳥ヶ淵ボート場及び2009年3月下旬～4月初旬に予定する「千代田さくらまつり」のハイライトであり、例年100万人を超える見物客でにぎわう「千鳥ヶ淵の夜桜のライトアップ」を、環境に配慮して、太陽光発電による電力でまかなうことに決めました。

千代田区が運営する千鳥ヶ淵のボート場施設の改築にあわせ、三菱重工(株)の協力により、屋根に18枚の太陽電池モジュール（2.2kW）を設置し、年間を通じて発生するクリーン電力を活用します。また同時に、2009年「千代田さくらまつり」夜桜のライトアップを、従来のディーゼル発電機による発電に代わって、地球温暖化ガス（CO₂）を一切排出しないクリーンなライトアップを実現します。

千代田区と観光協会は、太陽光発電システムの選定に当たり、千鳥ヶ淵の景観にふさわしい“落ち着いた色のパネル”であること、また、周囲の桜その他の樹木が妨げる日照効率との関係から、“直射日光だけではなく紫外線でも発電できる微結晶タンデム型の太陽電池モジュール※”が好ましいことなどを考慮し、この分野で実績のある三菱重工業株式会社（東京都港区、社長・大宮英明氏）に協力を要請しました。

三菱重工は、この協力要請に対し、日本で最も多くの夜桜見物客が集まる桜の名所に、環境を配慮したライトアップを提供することの「社会的貢献の意義」を高く評価され、設置工事を含め太陽光発電設備一式を寄贈することの申し出がありました。区及び観光協会は、この申し出を受け入れることにいたしました。

電池モジュールはボート場の管理棟（艇庫、小屋を含め）の改修工事に合わせて設置する計画で、12月頃の完工を見込んでいます。

また、「消費電力を削減すること自体が低公害化の促進」との立場から、今回の太陽光発電導入に併せ、ライトアップの照明にLED（発光ダイオード）機器等を活用するなどして消費電力を従来の約10分の1規模にすることを目指しており、現在、関係各社と検討中であることもあわせて、報告いたします。

※ 微結晶タンデム型太陽電池は、薄膜系電池の次世代機種。従来のアモルファス型シリコン膜に微結晶のシリコン膜を積層した2層構造タイプで、直射日光だけでなく、太陽光スペクトル（紫外線・可視光線・赤外線）を幅広く吸収して、アモルファス型太陽電池に比べ1.3倍（1枚あたり130Wの出力）の発電出力を有する。これまでの多結晶シリコンを原材料とする結晶型太陽電池と異なり、原材料の制約がないことから、コストダウンと安定供給に大きな期待が寄せられている。

※ 千代田区観光協会：千代田区のホテル・飲食店・物販店・交通事業者など観光関連事業者をはじめ、出版・印刷、放送メディア、NPO、個人で構成される千代田区の観光まちづくり推進団体。会長は三菱地所取締役相談役の高木茂。事務局長は元東京大学野球部監督の岡田彬。千代田区の観光イベントの実施・サポート、観光情報の提供、観光まちづくり人材育成などに取り組んでいる。

問い合わせ：千代田区観光協会 03-3292-5530

事務局長 岡田